

(7) 近畿



近畿地域では、景気は緩やかに回復している。

- ・鉱工業生産は緩やかに増加している。
- ・個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・雇用情勢は厳しい状況だが、改善が続いている。

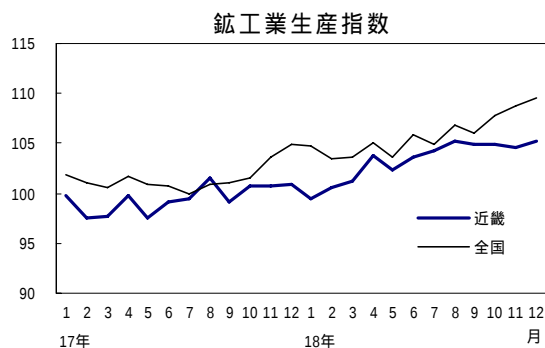
前回調査からの主要変更点

	前回（平成 18 年 11 月）	今回（平成 19 年 2 月）	
生産	増加	緩やかに増加	↓
消費	緩やかに増加	おおむね横ばい	↓
住宅建設	減少	大幅に増加	↑

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は緩やかに増加している。

一般機械は、一般用蒸気タービン、ガスタービンなどで前期までの反動もあったことから減少している。化学は、化粧品で前期のキャンペーン向け生産の反動があったことやポリプロピレンが不調だったことから減少している。電気機械は、セパレート型エアコン、非標準電圧器が好調であったことから増加している。食料品・たばこは、清涼飲料水などの不振により減少している。電子部品・デバイス、アクティブ型液晶素子（大型）などの在庫水準が増加しており、伸びが鈍化している。



- (備考) 1. 12年=100、季節調整値。
2. 平成18年12月の近畿は速報値。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

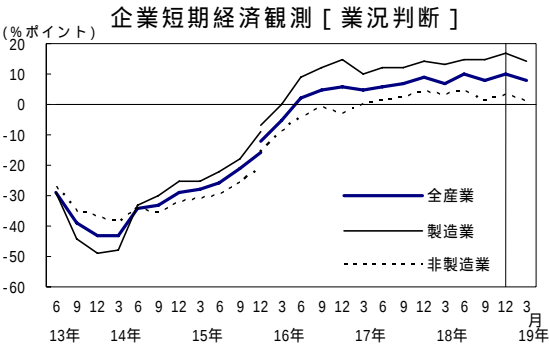
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		7～9 月期	10～12 月期	10～12 月期	10～12 月期
一般機械	15.0	0.8	▲3.5	▲2.9	▲5.2
化学	12.8	1.0	▲1.2	▲1.6	2.8
電気機械	10.1	6.9	2.2	1.3	6.3
食料品・たばこ	8.1	▲8.8	▲2.0	▲0.3	16.9
電子部品・デバイス	7.9	10.1	1.1	1.8	10.4
鉱工業	100.0	1.5	0.1	0.1	2.2

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

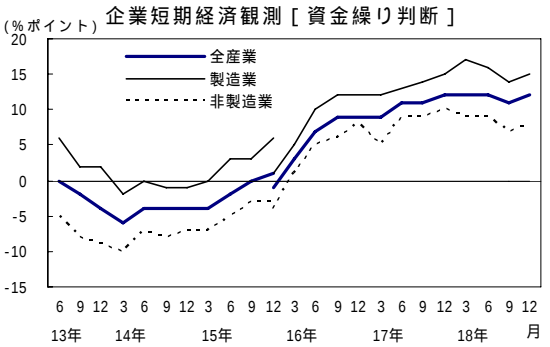
2. 10～12月期は速報値。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

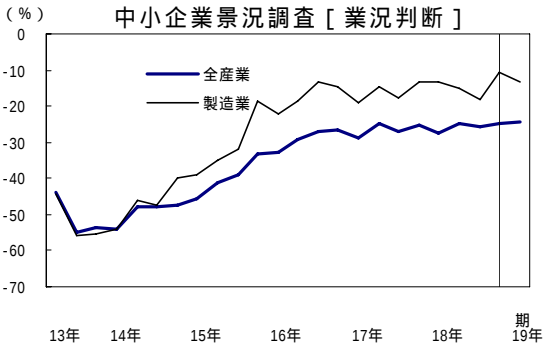
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。19年3月は予測。
15年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
15年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。19年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(1月)[企業動向関連(現状)]

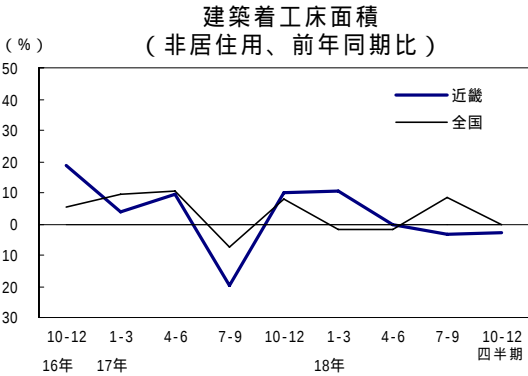
「暖冬で本来は冬に必要な商品が動かないことから、業績に影響が出ている(輸送業)」など「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 18年度の設備投資は前年度を上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(12月調査)]

	(前年度比、%)	
	17年度実績	18年度計画
全産業	8.3	8.8(▲2.6)
製造業	9.5	14.4(▲3.0)
非製造業	7.3	4.2(▲2.2)

(備考)()は前回(9月)調査比修正率。



(7) 近畿

2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている

大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、10月は、トレンド商品である婦人物のトレンチコート、ロングブーツなどが好調だったものの、衣料品や身の回り品が振るわず前年を下回った。11月は、トレンチコートやロングブーツなどに加え、催事や七五三で呉服が好調だったこと、さらに歳暮商品の早期受注などの効果もあり飲食料品が好調に推移したことから前年を上回った。12月は、紳士物のコートなど防寒衣料、あるいは手袋、マフラー等の身の回り品が全体として振るわなかったこと、歳暮商品の早期受注の反動などが重なり前年を下回った。10～12月期は、気温が平年より高めに推移したことから衣料品を中心に影響が出ている。なお、近畿百貨店協会によると、大阪地区の1月の売上高は、前年同月比で0.2%減となっている。

スーパーは、旅行関連商品やプレミアム・ビールなどのヒット商品があった酒類は好調だったものの、気温が高めに推移したことから防寒用の衣料や肌着などが振るわず、鍋物商材でもある野菜や生鮮魚介類も振るわなかったことから前年を下回っている。

景気ウォッチャー調査(1月)[家計動向関連(現状)]

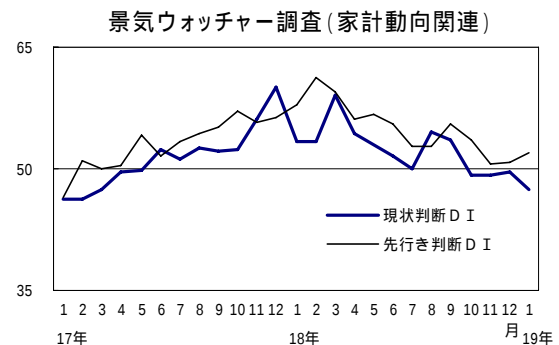
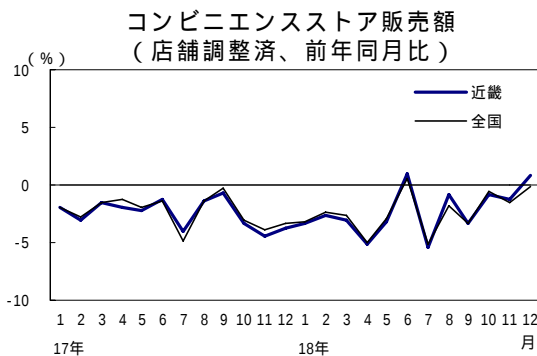
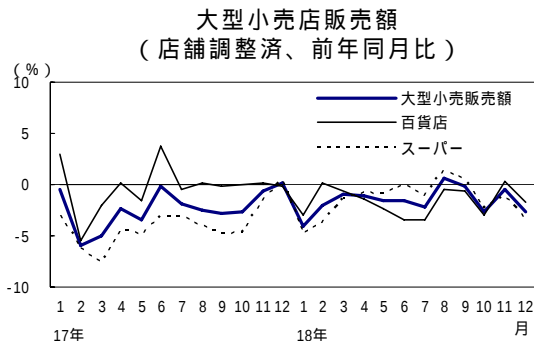
「単価の低下が顕著にみられる。年初のクリアランスセールでも、最初の1週間は冬物衣料を中心に前年を上回ったものの、2週目以降は失速している。季節要因ではなく消費マインドそのものが低迷している(百貨店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(前年同期比、%)

	18年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
大型小売店	▲2.5	▲1.4	▲0.7	▲1.9
百貨店	▲1.3	▲2.4	▲1.7	▲1.4
スーパー	▲3.4	▲0.6	0.2	▲2.4
コンビニ	▲3.0	▲2.4	▲3.2	▲0.4
景気ウォッチャー	55.3	53.0	52.7	49.4

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。

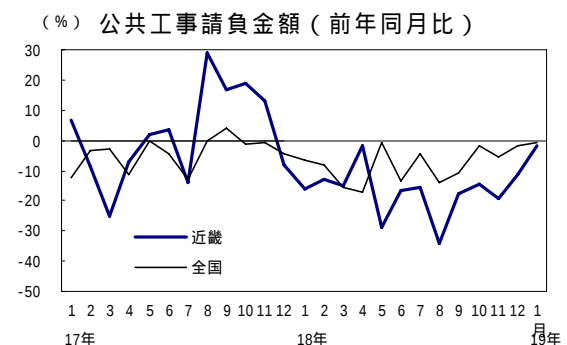
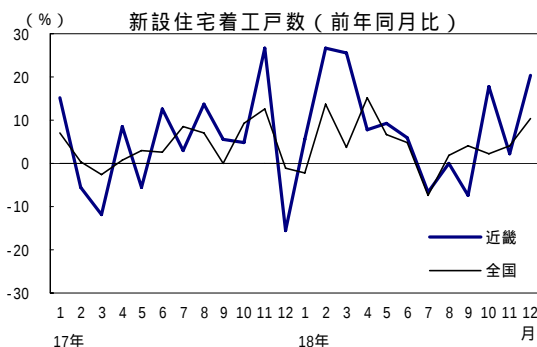
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。



(2) 住宅建設は大幅に増加している。

貸家と分譲が前年を上回ったことから、全体では大幅に増加している。

(3) 公共投資は18年度累計で見ると前年度を下回っている。

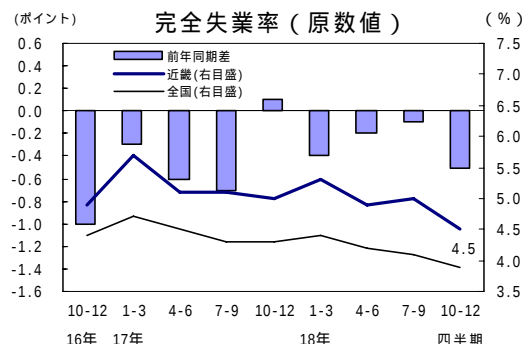
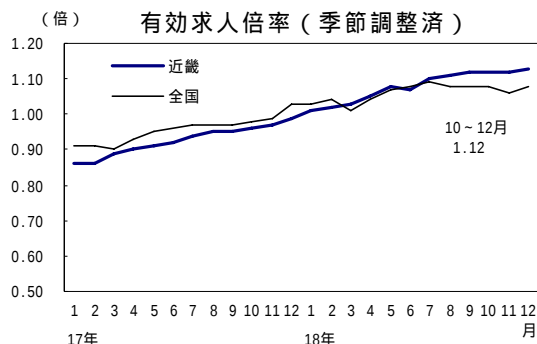


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、改善が続いている。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率はおおむね横ばいとなっている。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査 (1月) [雇用関連 (現状)]

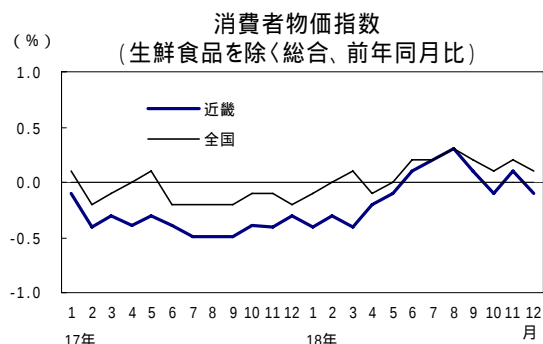
「2か月前にやや落ち込んだ求人数が、先月はほぼ横ばいの状態となったが、今月は再び落ち込んでいる。やはり景気は踊り場に来ている感がある。ただ、そのほかに不安材料は無く、賃金の見直しや年齢、資格要件の見直しは続いている (職業安定所)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数は減少しているものの、負債総額はおおむね横ばいである。

(3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	18年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	19年1月
倒産件数	921	910	893	897	300
(前年比)	22.6	13.5	3.1	▲17.2	▲3.2
負債総額	3,586	1,891	2,064	3,301	883
(前年比)	▲42.0	▲53.7	▲42.6	3.3	▲47.0



○ 景気ウォッチャー調査 (1月) [合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・暖冬が続いているものの売上は堅調に推移しており、大手菓子メーカーによる期限切れ原料の使用問題や鳥インフルエンザの影響も、今のところは出ていない (スーパー)

<先行き>

- ・話題の新製品に興味を持った客が来店しても、値段を見てあきらめるケースが続くなど、明るい兆しは見られない (一般小売店 [時計])

